

図書館員らしく、ミステリ談義をしよう

M「さあさあ!好きなミステリ作品を述べよ!はい、Tちゃん」
 T「…有栖川有栖さんの『火村シリーズ』が好きです」
 F「長いシリーズですけど、割と最近ドラマになってましたよね。イケメン俳優の」
 M「あれって確か著者の有栖川有栖本人が作中に登場するよね…。ドラマも?」
 T「…イケメン俳優さんでした」
 M「うん。それ以上は触れないでおくれ!さて、ミステリといえばトリック、そして密室殺人!いつも思うんだけど、密室にしなければ事故か自殺で処理されて終わるのになんで密室にするのかな?自意識過剰?この密室の謎を解くが!的な」
 F「本当は自殺なのに発見した人が密室にしてしまうというパターンもありますよ」
 M「私が思うに、ミステリって探偵役が素晴らしい頭脳で最後にいろんな謎を解くけど、よく考えたら、犯人の決め手はたまたま発生した『何か』によることが多い気がするのよ」
 F「その日たまたま雨が降っていた、とか?」
 M「そう。いわゆる『犯人の犯した致命的なミス』がなければ謎は解けないはずなのだ」
 T「…謎の解明は運が左右するってことですね」
 M「何気にTちゃんが真理を突いてきたわ」
 F「いやいや探偵が致命的ミスを探し当てることを含めてミステリなんですよ」
 M「ヒネた発想はせずにミステリは楽しまなきゃね。ところでミステリを読む時って、トリックや犯人を考えながら読む?」
 F「…最後までさらっと読んで、犯人やトリックに『なるほど!』で終わり」
 M「著者の渾身のトリックにその扱い…。なるべく挑戦してあげてよ。そんなFさんが好きなミステリは?」
 F「私は中山七里さんの『岬洋介シリーズ』が好きなんですけど、最新作を買ったのにまだ読んでない…」
 T「…私も火村シリーズを棚に綺麗に並べて満足してしまいます」
 M「手に入れたことで満足して積ん読るのはあるあるよねえ。私もそんな本が部屋に埋もれています。図書館で借りた本は期限があるから早く読まねば!ってなるけど」
 F「あ、Mさんの好きなミステリを聞いていませんが」
 M「私は読んだら数か月で大抵中身を忘れるのよね。心に残るミステリに出会う日はいつかしらね～。ほほほ」



←QRコードでも
アクセスできます

インスタグラム公開中 ここにアクセスしてね★
<https://www.instagram.com/hondarake55>

ホンダラケ

2022. 6.1

つまり、トリックとか
密室とかのやつ

ミステリとはつまりなんだろう～?と説明しようと思ったらこんなタイトルに…!はい、ミステリ特集ですよ。

『五色の殺人者』

千田理緒 / 著

東京創元社 2020年刊



F/セン

介護老人施設で発生した殺人事件。逃げ去る犯人の着ていた服の色を証言する高齢者たちは、ある者は赤と言ひ、ある者は黒と言う。最終的にそろった証言の服の色は、赤・緑・黒・青・白。一体どうしてこんなことに?施設スタッフのメイは、同僚に頼まれて犯人探しをすることになるのだが…。ちょっとした言葉の行き違いや解釈が解決の鍵となります。最初からじっくり読めば、ヒントや伏線にきっと気が付くはず。挑戦してみてください!

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「学校生活」
憧れの学校生活？リアルな学校生活？
どんな本が並ぶのか、必見です！

『終点のあの子』 柚木麻子／著 文藝春秋社 2010年刊

スクールカーストの激しいとあるクラスで過ごす女の子たちの成長がそれぞれの視点で描かれている短編集。リアルすぎる登場人物達のほろ苦い青春にきっと共感してしまいます。色んなタイプの女の子の気持ちが描かれていて、昔私とは解り合えなかったあの子もこんな気持ちだったのかもと泣いてしまいました。ぜひ読んでみて下さい！

P.N. 結 (高校2年生)



F/ユズ

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『国語をめぐる冒険』

渡部泰明・平野多恵・出口智之・田中洋美・仲島ひとみ／著
岩波書店 2021年刊

言葉なんて日常生活に困らないだけ使えばいい？ それじゃもったいないというものです。この本は「国語は冒険だ」と掲げて、その魅力を説いています。特に、「他者が見えると、自分も見える」と題された、小説について書かれた章。例に出された『山月記』の〈裏の物語〉を読み解く記述はまるで謎解きのようです。進んでいけばいくほど、以前とは違った景色が見えてきます。奥深くて、面白い世界の一端をぜひのぞいてみてください。



810/21

新着図書 Pick Up

『ルームメイトと謎解きを』

楠谷佑／著 2022年刊 ポプラ社



F/クス

全寮制の男子校、霧森学院の旧寮「あすなる館」の入居者は10人にも満たない。去年の「ある事件」のせいで……。そんなあすなる館に入居している雛太は、高校2年になった春に転入してきた絵愛(エチカ)と同室になる。彼は人間以外の動物をこよなく愛する変わり者だった。雛太のまっすぐな心に、絵愛も、次第に友人関係を築いていくが、彼らの周りで事件が起きて……。謎解きはもちろん、男子高校生の日常も描きながら、物語が進んでいきます。最後にはまさかの結末が待っているかも？！

難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

『エラリー・クイーンの冒険』

エラリー・クイーン／著 中村有希／訳 2018年刊 東京創元社

探偵、エラリー・クイーンが活躍する本書。耳にしたことのある方も多いのではないのでしょうか。ここで紹介するのは、探偵・エラリーの「冒険」についての物語です。とはいっても、本当に冒険する訳ではなく……しっかりと探偵らしく「推理」していますよ。地獄の番犬の名を持つ宿でのミステリなど、11編がおさめられています。謎を解き明かしていく探偵の冒険をじっくり味わってみてはいかががでしょうか。



933/クイ